活動統計 2022年度

○ 活動参加者数

121人 Member:(田原幸・芹澤・古井・中山・大北・石田周・長野・菅・佐藤・津守・大島圭・石田理・山田馬・前田・浦・喜多村・鈴木順・鮫島ェ・田中幸・田代・小嶋直・小嶋文・大島_寒・本部・山本・坂本・檜山・田村・内藤・杉尾・芝生・谷川・金田・吉武・和田・森山・篠塚・佐瀬・松友ニ・松友は、今泉・中内)他 LSC:(中野・荒木・楳澤・山下・村上・鎌田・加藤・磯崎・山賀・光安・村中・松島・西村・藤本力・吉住・森・山口・荒川・米倉・山尾・椿・法元・田上・師岡・森内・永山・天本・森中・山浦・鈴木・藤本紙・野田郷・櫻井・藤田・庄司・濱崎・野田瑞・大城・山崎雪・山崎雄・井戸川・山口・白垣・木原・佐田・栗木・小野・米田・魚住・近藤・菊竹・井上・杉浦・桝屋・久篠・三宅・玉木・ 那須・岩本・栗栖・風間・上野・青木・原田・高野)Special Thanks:(鮫島®・鮫島®・鮫島®・光倉・龍頭・小野・福嶋®・福嶋®・神殿・川崎・田邊・歌野原)

○ 活動延べ日数 【2021年度值】

247日間 【203 日間】

○ 活動延べ人数 【2021年度值】

1269人(平均:5.14人/日) 【1056人(平均:5.18 人/日)】

○ 活動詳細延べ日数・延べ人数 【2021年度值】

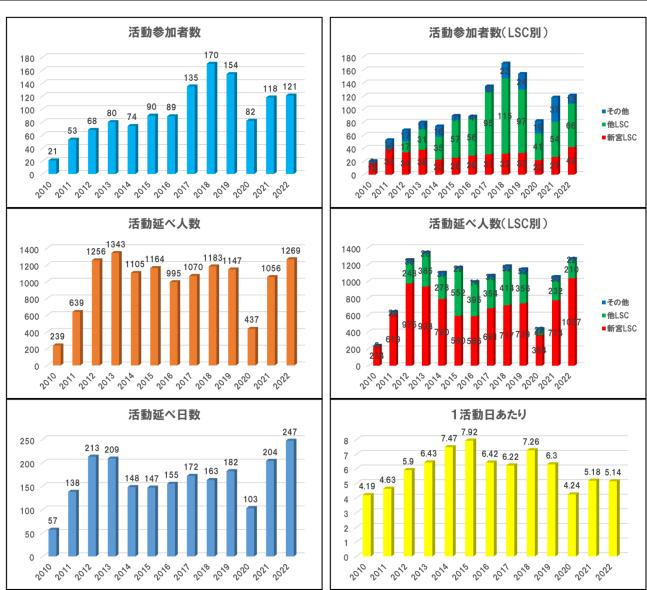
1	水辺の監視・救助活動事業	33日	218名	(平均:6.61 人/日)	【24日 137名 (平均:5.71人/日)】
2	教育事業	42日	337名	(平均:8.02 人/日)	【30日 317名 (平均:10.6 人/日)】
3	ライフセービング競技事業	34日	129名	(平均:3.79人/日)	【13日 32名 (平均:2.46 人/日)】
4	環境保全活動事業	4日	22名	(平均:5.50人/日)	【 7日 39名 (平均:5.57 人/日)】
5	目的を達成に必要な事業	94日	439名	(平均:4.67人/日)	【90日 403名 (平均:4.48 人/日)】
6	運営・管理	40日	124名	(平均:3.10人/日)	【40日 128名 (平均:3.20人/日)】

○ 活動の内訳

○ 全体統計

2022年度は、ほぼコロナ禍以前のように活動を再開できました。

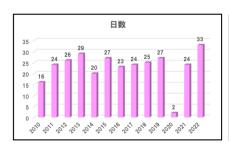
年度	メンバー数	活動参加者数	増減	活動延べ日数	増減	活動延べ人数	増減	1 活動日あたり	増減
2010年度	18名	21名	_	57 ⊟	_	239名	_	4.19 人/日	_
2011 年度	39名	53名	252%	138 ⊟	242%	639名	267%	4.63 人/日	+0.44
2012 年度	36名	68名	128%	213 🛭	154%	1256名	197%	5.90 人/日	+1.27
2013年度	38名	80名	118%	209 ⊟	98%	1343名	107%	6.43 人/日	+0.53
2014 年度	23名	74名	93%	148 🛘	71%	1105名	82%	7.47 人/日	+1.04
2015年度	26名	90名	122%	147 ⊟	99%	1164名	105%	7.92 人/日	+0.45
2016年度	31名	89名	99%	155 ⊟	105%	995名	85%	6.42 人/日	-1.50
2017年度	33名	135名	152%	172 ⊟	111%	1070名	108%	6.22 人/日	-0.20
2018年度	34名	170名	126%	163 ⊟	95%	1183名	111%	7.26 人/日	+1.04
2019年度	34名	154名	91%	182 ⊟	112%	1147名	97%	6,30 人/日	-0.96
2020 年度	31名	82名	53%	103 ⊟	57%	437名	38%	4.24 人/日	-2.06
2021 年度	33名	118名	144%	204日	198%	1056名	242%	5.18 人/日	+0.94
2022 年度	44 名	121名	103%	247日	121%	1269名	120%	5.14 人/日	-0.04



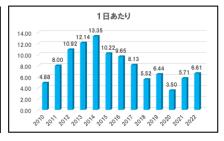
ほぼ完全にコロナ禍以前への活動に戻ることができました。2021 年度から JLA アカデミーへの大学クラブ上級生の協力者を加算しないこととしたため、活動延べ日数以外の数値は、2021 年度以降そ

○ 活動別統計·各論

① 水辺の監視・救助活動事業

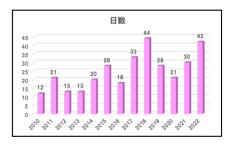


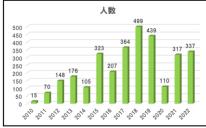


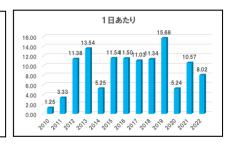


活動日数は増加し、参加人数や1日あたりの減少傾向もようやく下げ止まり感があります。当法人の活動根幹となるこの事業の更なる参加率向上が望まれます。

② 教育事業

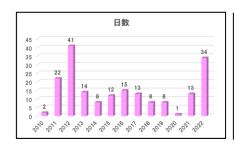




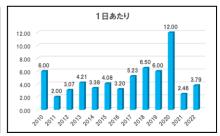


概ね右肩上がりとなっています。教育事業はメンバーやライフセービング活動の普及促進にもつながるため、更なる増加が望まれます。2021 年度から JLA アカデミーへの大学クラブ上級生の協力者を加算しないこととしたため、人数や1日あたりは2021 年度以降その分目減りしています。

③ ライフセービング競技事業

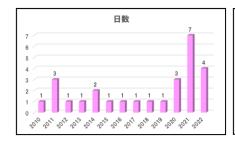


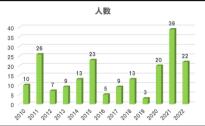


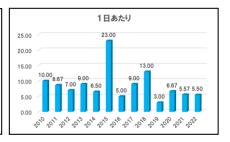


2012 年度は管選手、2022 年度は石田選手の HPT 選出の影響が大きく突出しています。今後も継続して HPT 選手となれる競技者の育成が必要です。

④ 環境保全活動事業

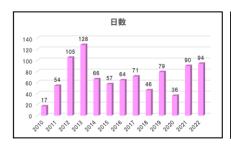




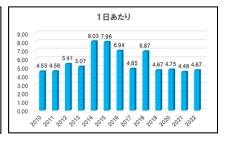


近年微増ですが、あまり実施できていません。今後も実施方法などを創意工夫しながら環境保全活動 へも力を入れていきたいと考えています。

⑤ 目的を達成するために必要な事業

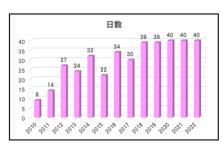


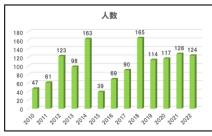


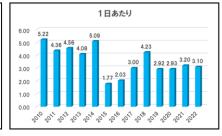


概ね横ばいです。更なる飛躍を目指したいと考えています。

⑥ 運営·管理







頭打ちのようにも見えますが、運営としては良い頻度で継続して運営できていると考えています。

〇 総論

2022 年度は新型コロナウイルス感染症の影響もほぼなくなり、コロナ禍以前の活動へと戻すことができました。今後はいかに継続して活動を発展させていくかが課題となっています。

今後も更なる組織化を図り、より発展を目指していく所存です。社会にとって有益であるこの活動を 今後も維持継続していくために、より強固な組織体制を目指して、更に多くの社会貢献ができるよう成 長し続けていきたいと考えています。